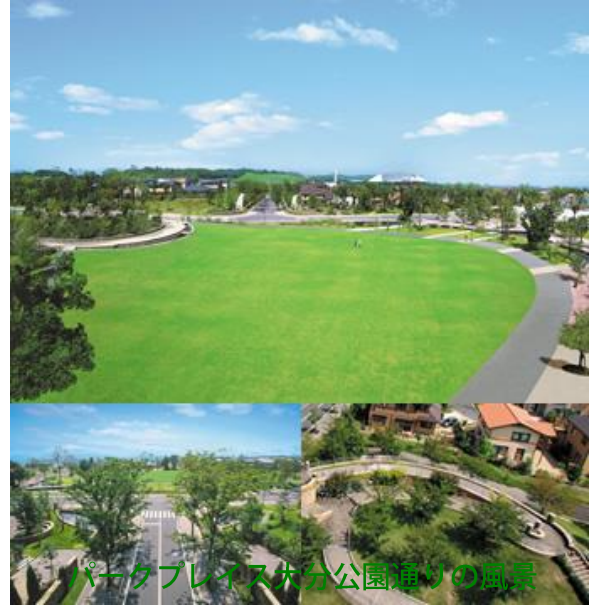


歴史と街づくり活動の経緯

当団地は、ディベロッパー（福岡地所株式会社）の手により、分譲住宅地として2001年から開発されたものである。開発当初より既存の大規模住宅団地のような単調で無味乾燥な街並みを避ける為、コミュニティの適正規模である50戸を街の1ユニットとしてモデルハウスゾーンや注文住宅ゾーンを分譲して、街並みを形成するよう工夫されており、現在は総区画数1,200区画のうち約900世帯が生活している。

団地内は「公園」をテーマとしたまちなみになっており、公園用緑地 32 万㎡のうち将来的には 5.6 万㎡は管理組合法人が所有する予定である。



各所公園の風景

公園内の植栽は、開発前に拾ったドングリを苗木から育てた樹木を植えたり、自生していた2千本の樹木を一旦仮植したのち再び公園に移植して緑豊かな環境があり、また各所に整備された公園は異なるコンセプトで、この街のランドスケープデザインを特徴的にしている。

街のエントランスとしての誇り高いデザインのゲートパーク。街の中心にある広さ 10,000 ㎡のセントラルパーク。周長 1.6km のネックレスパーク。眼下に九六位山や大野川を望む眺望が素晴らしいスカイパーク。さらにネックレスパークに点在するファイブセンスガーデンや、住宅ゾーンの一部には緑地帯やフットパスも整備され、ここで暮らす人々の生活と公園環境とがオーバーラッピングされ、住宅地全体が歳月を重ねるほどに豊かな空間になる事を目指している。